

## 4 歳児（年中）保育指導案「あきのあそびをしよう」

### 1 幼児の姿

- 昨年度1年間の積み重ねもあり、1学期の進級当初から慣れた様子で登園時の身支度に取り組んでいる姿が見られている。個人差はあるものの、どの子どもも入園当初より手早く身支度を済ませることができるようになり、その後の生活時間を多くとることにつながっている。当番の仕事も、1学期から保育者の手を借りながら繰り返し行って内容や手順を身に付けたことで、これを行うことを楽しみにし、言われなくても進んで取り組むことが増えてきた。また、このようなこと（朝の身支度や当番の活動）の成果を嬉々として保育者に報告してくることも多く、自分が何かをできるようになったことを嬉しいと思う気持ちや、そのことを誰かに認められたいと思う気持ちが強くなってきていると思われる。このような中で、○児は遊びたい気持ちが強く、みんなで同じ事をしているときはよいが、個人的にしなければならないことがあるときに、周りの雰囲気によって活動が滞ることが多い。また、○児については大人への依存心が強く、以前よりは大きく改善されてはいるが、保育者がそばについて指示や励ましを要する場面がある。2人ともやればきちんとできるので、活動が滞る前に声をかけたり、できたことをしっかり賞賛したりするなどの援助によって、自信を持って活動することができるようにする必要がある。
- 子どもたちは砂遊びや遊具遊びをすることが多く、基本的に戸外での遊びを好む傾向が強い。2学期に入ってから、2回目の運動会に向けて毎日練習に励み、保育者の真似をして複数人でかけっこの練習をしたり、遊具を並べて障害物競走の練習をしたり、自分たちで歌いながらダンスを踊ったりするなど、全身を使って遊ぶ楽しさを味わっている。また、春の虫捕りや花摘み、夏の水遊びや泥遊びなど、子どもたちは季節に応じた遊びに熱心に取り組んでいる。「今日はおひさまがげんきであついで。」「今日は雨だからつまらない。」など、その日の気候や気温を感じ取っているような発言も聞かれ、自然環境の変化を体で感じ取り、その季節、その天気ならではの遊びに自然に惹かれていると思われる。特に最近秋が深まり、休みの日に家族で出かけた際に拾ったドングリをたくさん持ってきて友だちや保育者に見せたり、落ちてきた葉をお金に見立ててままごと遊びをしたりする姿が見られている。
- 子どもたちの遊びの様子を見てみると、はじめのうちは自分の見つけた遊びに自分で取り組むだけであったのが、徐々に友だちの楽しそうな遊びに触発されてこれを真似したり、同じような遊びをしている友だち同士で自然に集まったり、誘い合ったりして集団で遊んだりする姿も見られるようになってきた。しかしながら、思いの違いから言い合いになったり、物の取り合いが起こったりすることもあり、保育者が仲裁に入ることも少なくない。互いの思いがわかるように、きちんと順序立てて互いの話を整理し、言って聞かせると納得することができるので、子どもたちなりに、相手の思いを大切にしながらいっしょに仲よく遊ぶことができるようにしたい。

## 2 期のねらい

- ◎ 同じ目的を持った友だちと仲よく遊びながら、もっと楽しい遊ぶようになるように、工夫と協力をすることができるようになる。
- 戸外で、友だちと一緒に体を使って遊び楽しさを味わう。
- 気の合う友だちや、同じ目的を持っている友だちと思いを共有したり、考えを出し合ったりしながら活動する喜びを味わう。
- 秋の自然に触れ、興味を持ってそれらを見つめたり、遊びに使ったりしながら季節を感じ取る。

## 3 本日のねらい

- 秋の自然物を用いて、感じたことをもとに、イメージを膨らませながら見立てたり、作ったりして友だちと遊ぶことができるようにする。
- 自分なりに感じたことや考えたことを表現したり、友だちの思いに気づいたりすることができるようにする。

## 4 本日の保育にあたって（環境設定の留意点や援助のポイント）

### 【環境設定の留意点】

- 前日までの子どもたちの遊びの様子をもとに、木の実、落ち葉、草花、小枝など、秋の自然物を豊富に用意しておくとともに、お互いの活動の様子が視界に入るような位置関係で配置する。
- 個人や小グループ、全体など、子どもたちの活動の志向に応じてグループが柔軟に形成されるように活動の場を設定するとともに、一人一人のこだわりや楽しみが成就できるように、遊びの内容に関連性を持たせる。

### 【援助のポイント】

- 子どもが自分の活動に自信を持ったり、友だちの活動のおもしろさに目を向けてたりすることができるように、子どもの活動やつぶやきを共感的に受け止めたり、賞賛したりする。
- 友だちと一緒に活動する必然性や、そのことによる楽しさを生み出すことができるように、活動グループごとの遊びの内容に応じて、ごっこ遊びやゲーム化などの視点から遊び方の助言を行う。

## 5 活動の流れ



6 本日の活動

個人の活動

全体の活動

主な活動	指導上の留意点
<p>1 登園する。 [09:00]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをする。</li> <li>・ 身の回りの整理をする。</li> <li>・ 着替えて衣服をしまう。</li> </ul> <p>2 <b>秋のものを使って好きな遊びをする。</b> [09:45]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前日までの遊びをもとに、3つの場所に分かれて遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育者や友だちと元気に挨拶を交わすことで、一日の生活への期待感を高める。</li> <li>○ 身支度等に集中して取り組むことができるように、できている子どもを賞賛したり、そうでない子どもを励ましたりする。</li> <li>○ それぞれの場において、楽しいと感じていることや思いを持って工夫していることを問いかけ、目的や作りたい物のイメージをはっきりと持てるようにする。また、友だちと協力したり、励まし合ったりして仲よく遊んでいる姿を賞賛する。</li> </ul>

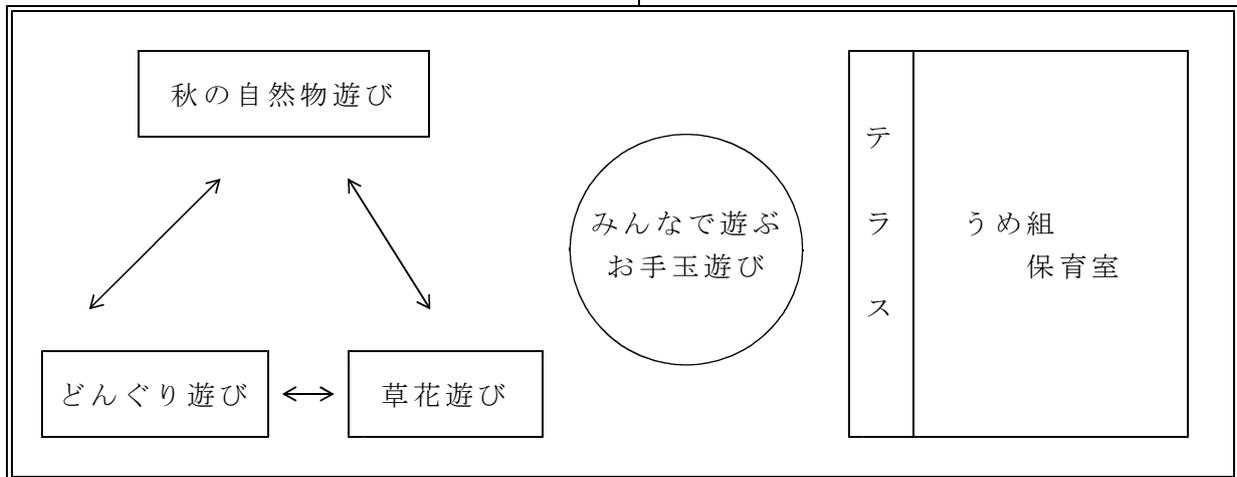
【秋の自然物で自由に遊ぶ】	【どんぐりで遊ぶ】	【草花を使って遊ぶ】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デザートを作る。</li> <li>・ お寿司やお団子を作る。</li> <li>・ 作った物でお店屋さんごっこをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんぐりゲームで遊ぶ。</li> <li>・ ゲームの景品を作る。</li> <li>・ ゲームのルールを工夫して遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 草花を飾る</li> <li>・ 花束や花輪を作る。</li> <li>・ お花屋さんごっこをして遊ぶ。</li> </ul>
<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもと一緒に草花を集めたり、新しい素材を準備したりする。</li> <li>○ 自然物に触れた感触や感じを表している発言を共感的に受け止める。</li> <li>○ お客さん役の子どもとお店屋さんの子どもの相互にふれあえるように声かけをする。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いに教え合っている場面を賞賛し、一緒に場を広げて遊ぶことができるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 草花を用いた活動を通して、美しさやかわいさを感じている子どもに共感的に接する。</li> <li>○ 友だちとイメージが重なっていく場面において、作った物を飾る場所を確かめ、友だちとのふれあいを促す。</li> </ul>

3 **みんなで秋の物で遊ぶ。**

[ 1 0 : 3 0 ]

- ① お手玉遊びと出会う。
- ② いろいろな木の実を集める。
- ③ 集めた木の実でお手玉を作って遊ぶ。
- ④ 個数を変えたり、曲のリズムに合わせてたりしてお手玉遊びをする。

- いろいろな木の実を準備しておく。
- 子どもの発見やつぶやきを共感的に受け止めたり、賞賛したりする。
- 身近な素材を使ってお手玉ができることを知らせ、どんな素材を使ったらよいのか考えさせるとともに、形や色に着目した子どもの発見を伝え合う場を位置づける。
- 曲にあわせて楽しく体を動かすことができるようにするとともに、遊び方についての子どものアイデアを引き出したり、全体に広げたりする。



4 **遊んだところの片付けをする。**

[ 1 1 : 1 5 ]

- 材料や道具などを片付ける。
- 排泄・手洗い・うがいをする。
- 集まって絵本を見る。

- 子どもが進んで片付けるように声かけを行うとともに、一生懸命片付けている姿を賞賛することで、自信や充実感を持たせる。
- 楽しい雰囲気の中で、かつ落ち着いて絵本のおもしろさに浸ることができるように読み聞かせる。

5 **給食の用意をする。**

[ 1 1 : 4 5 ]